

智積院の概要と歴史

智積院は仏教の真言宗の智山派の総本山である。日本全国の 3000 以上の末寺を統括しており、若い修行僧が幅広い密教の儀式をマスターするための主要な修行の場として機能している。この寺は徳川家からふんだんに支援を受け、江戸時代（1600～1868 年）に繁栄した。今でも智積院は、仏教の修行、信仰、そして地域社会との関わりの活気あふれる拠点となっている。16 世紀後期に長谷川等伯（1539～1610 年）によって描かれた障壁画は、桃山時代（1539～1600 年頃）の美術の代表例となっている。鮮やかな金と深い茶色の色調を対比させて自然の風景を描いているこれらの障壁画は、国宝に指定されている。智積院の庭もまた同じように有名である。中国中部の廬山の周辺の地域を模していて、一年を通じて景色が変化を見せ、四季折々の独特な美しさを示す。